

お子さんのための

予防接種のしおり

保存版

私たちの身の回りには、細菌やウイルスによって引き起こされる様々な感染症があります。こうした感染症の一部は予防接種によって防ぐことができます。剣淵町では、法律で決められた予防接種（BCG・四種混合・麻しん風しん・ヒブ・小児肺炎球菌・水痘・日本脳炎・子宮頸がんワクチンなど）をお子さんの体調の良い時に医師と相談しながら受けることができるように、「個別接種」の方法で実施しています。

予防接種を受ける前には、この「予防接種のしおり」を必ずお読みいただき、内容をよくご理解した上で、接種をうけてください。

☆☆☆ 予防接種の受け方について ☆☆☆

生後2か月を過ぎると、ヒブ、小児肺炎球菌、B型肝炎、ロタウイルス、四種混合、生後5か月を過ぎるとBCGなどが受けられます。対象年齢をすぎると定期接種とならない場合もあるため、計画的に進めましょう。

予防接種行く前にチェック

- ❁ お子さんの体調はいいですか？
- ❁ 今日受ける予防接種について、必要性、効果及び副反応などについて、説明文は読みましたか？
- ❁ 母子手帳は持ちましたか？
- ❁ 予診票は記入して持ちましたか？（任意接種の場合予診票は医療機関でもらい、記載します）



剣淵町

健康福祉課保健グループ

令和5年4月作成

【予防接種・ワクチンとは】

私たちの身の回りには、細菌やウイルスによって引き起こされるさまざまな感染症があります。これらを防ぐためにもっとも有効な手段が“ワクチン（予防接種）”です。ワクチンは、感染症の原因となるウイルスや細菌を精製・加工して、病原性（毒性）を弱めたりなくしたりして、体にとって安全な状態にしたものです。

予防接種には「予防接種法」で定められている「定期接種」と呼ばれるものと、「任意接種」と呼ばれるものがあります。定期接種は、国が乳幼児に接種を強く進めているワクチンで、剣淵町では無料で行っています。一方任意接種は接種するかどうか接種する側（お子さん、保護者）に任されているワクチンですが、決して医学的に重要度が低いワクチンというわけではありません。保護者で任意接種を接種するかどうかも含めて、接種スケジュールを考えましょう。

予防接種は、一人ひとり感染症から守る効果と、その積み重ねにより社会全体としての抵抗力（免疫）を維持し、感染症そのものの流行を抑える効果もあります。「流行していないから必要ないのでは」という声もありますが、一人ひとりが予防接種を行うことで流行が抑えられています。

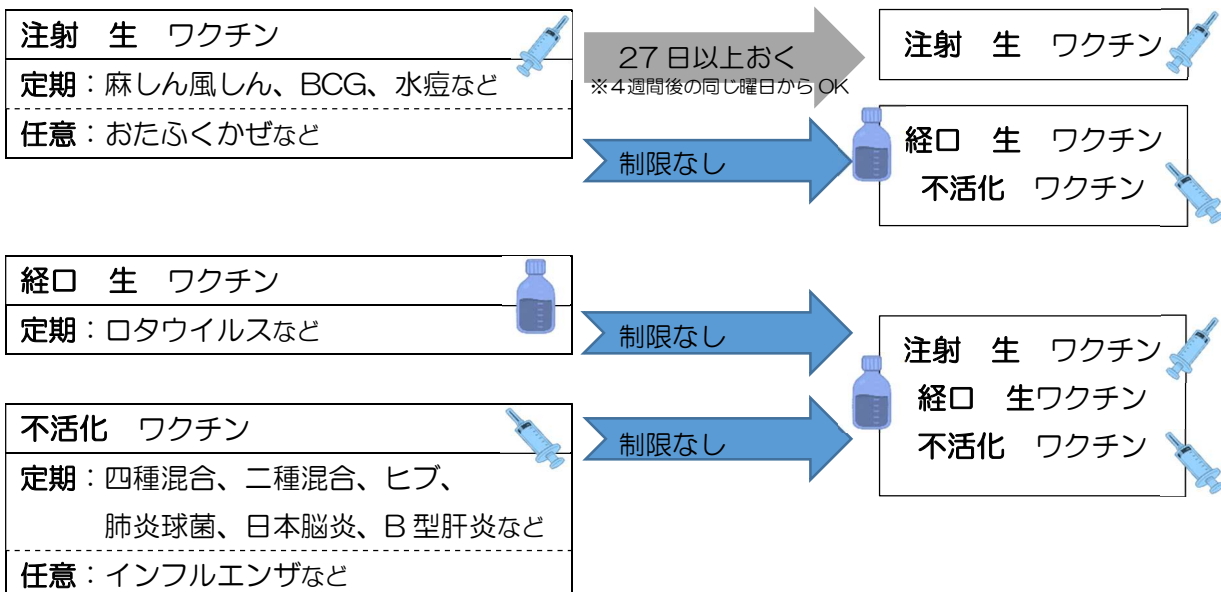
【予防接種の種類】

生ワクチンは病原性を極度に弱めた（弱毒化した）ウイルスや細菌などをワクチンとしたものです。接種後に得られる免疫は強固で、自演感染による病原性の強い（強毒な）病原体による発病や重症化を防ぐことができます。この免疫の強さは自然感染の場合とほぼ同様に長続きします。

不活化ワクチンは、大量に培養されたウイルスや細菌からウイルス粒子や細菌の菌体を集めて精製した後、ホルマリン等の薬剤を用いて処理し、病原体の活力を失わせて不活化したものをワクチンとしたものです。数回接種することにより抵抗力をつけます。

【異なる種類のワクチンを接種する場合の間隔】

接種の効果と安全性を確保するために、次の間隔をあけることになっています。



※同じ種類のワクチンを何回か接種する場合には、それぞれ定められた期間があります。

例) 1回目のヒブワクチンと2回目のヒブワクチンの間隔は、27日あける。

【予防接種を受けることができない場合】

次のようなお子さんは予防接種を受けることができません

- ア 明らかに発熱（通常 37.5℃以上）をしているお子さん
- イ 重篤な急性疾患にかかっていることがあきらかなお子さん
- ウ その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかなお子さん
- エ BCG 接種の場合
 - ・ 予防接種や外傷によるケロイドが認められるお子さん
 - ・ 結核にかかったことのあるお子さん
- オ 生ワクチン接種の場合、免疫機能に異常のある疾患を持つお子さん及び免疫抑制をきたす治療を受けているお子さん
- カ その他、医師が不適切な状態と判断した場合

【一般的注意事項】

- ア 接種後 30 分間は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応がこの間に起きることがあります。
- イ 接種後、生ワクチンでは4週間、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ウ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- エ 接種当日は、激しい運動を避けてください。
- オ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう

【副反応】

予防接種を受けると、免疫ができるという効果のほか、アレルギー反応などの症状が現れる場合があります。それらを総称して「副反応」といいます。予防接種を受けたあと、心配な症状が出た場合には、早めに接種した医師かかかりつけ医にご相談ください。

【予防接種救済制度】

予防接種によって、極めてまれに重い副反応が生じることがあり、このような健康被害に対して救済制度が設けられています。定期接種により健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく健康被害救済制度、任意接種により健康被害が生じた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済制度の対象になります。

【問い合わせ先】

スケジュールや副反応などの相談は、

健康福祉総合センター（ふれあい健康センター）内 剣淵町 健康福祉課 保健グループ

電話：0165-34-3955

にご連絡ください。

お問い合わせの際は、「母子手帳などの接種記録のわかるもの」を必ずご用意ください。

【同時接種】

通常は生ワクチンの接種を受けた場合は中 27 日、不活化ワクチンを受けた場合は中6日以上間隔を
おいて別の種類のワクチンの接種を行いますが、医師が特に必要と認めた場合には、他のワクチンと同
時に接種することができます。同時接種は予防接種のための通院回数を減らし、お子さんや保護者の負
担を軽減することにつながります。特に乳児期の予防接種は回数が多いため、同時接種をうまく活用し、
お子さんと保護者のライフスタイルにあったスケジュールを計画しましょう。

【定期予防接種実施医療機関】

剣淵町立診療所または土別市立病院で定期予防接種を行っています。希望する医療機関に各自予約し
て接種してください。

剣 淵 町 立 診 療 所	日 程	月曜日・水曜日 ※他の曜日、時間帯でもご相談ください。
	時 間	午後1時～午後2時（午後1時30分までに受付） 午後3時～午後5時（午後4時30分までに受付）
	予約方法	接種日の3日前までに電話でお申し込みください。 ※直前でのお申込みはワクチンの在庫が確保できない場合があります。
	電話番号	0165-34-2030
土 別 市 立 病 院	日 程	土別市立病院ホームページ、もしくは町で発行している「予防接種・乳幼児健 診等日程表」でご確認ください。 ※1歳未満の予防接種に関しては毎週水曜日に実施しています。
	時 間	午後1時30分～午後4時（受付は午後3時30分まで）
	予約方法	接種日の2日前までに小児科へお申し込みください。 ※電話はできるだけ、16:00～17:00の間をお願いします。
	受 付	[小児科にかかったことがある場合] 自動再来機で受付してください。 ※午後3時～4時は受付窓口で受付してください。 [小児科にかかったことがない場合] 受付窓口で受付してください。

※里帰り等の都合により、委託医療機関以外での予防接種を希望する場合、事前に必要な手続きをして
いただくことにより接種に係る費用の払い戻し（償還払い）を受けることができます。（申請から払い戻
しまでに2～3か月程度かかります）

【予防接種を受けるときの持ち物】

- ・母子手帳
- ・予診票（説明文をご理解の上、記載したもの）

※剣淵町に住民登録されている方の定期接種は無料で受けられます

頑張るパパとママの 予防接種@入門

定期予防接種のご案内

予防接種は、かかると重症化しやすい感染症を予防するために必要なものです。
接種時期は限られているので、すべて受けられるようしっかり計画を立てましょう。

ロタウイルス

経口 生 2ヶ月～

【病気の説明】

ロタウイルスは、乳幼児に多い急性胃腸炎を引き起こすウイルスです。2～3月頃に流行し、入院が必要となるほど重症になることもあります。

【予防接種の方法】

対象者：1価ワクチン（ロタリックス®）…生後6週から生後24週までの間（約5か月半）

5価ワクチン（ロタテック®）…生後6週から32週までの間（約7か月半）

標準的な接種期間：初回接種 生後2ヶ月から 初回接種の標準的接種期間の終了日 出生14週6日

1価ワクチン（ロタリックス®） 出生24週0日

5価ワクチン（ロタテック®） 出生32週0日

回数・接種間隔：1価ワクチン（ロタリックス®） 2回 27日以上

5価ワクチン（ロタテック®） 3回 27日以上

※2回目以降の接種は、生後14週6日の前後いずれでも接種できます。初回接種は、生後14週6日までに受けてください。

ヒブ (Hib)

注射 不活化 2ヶ月～

【病気の説明】

インフルエンザ菌は、乳幼児の化膿性髄膜炎、敗血症、喉頭蓋炎などの重篤な全身感染症の原因となっています。

【予防接種の方法】

対象者：生後2ヶ月から生後60ヶ月に至るまで

標準的な接種期間：初回 生後2ヶ月から7ヶ月に至るまで

追加 初回接種終了後7ヶ月から13ヶ月の間隔をおく

回数・接種間隔：初回 3回 27日から56日（4週間～8週間）の間隔をおく

追加 1回 初回接種終了後7か月以上

※ヒブ（Hib）の予防接種は、初回接種を開始した月齢ごとに接種の方法・回数が異なります。下記には標準的なスケジュールを記載します。標準スケジュールから外れた場合は【表1】を参照してください。

小肺炎球菌肺炎球菌

注射 不活化 2ヶ月～

【病気の説明】

肺炎球菌は、乳幼児の上気道に感染後、ときに化膿性髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な全身感染症や中耳炎、副鼻腔炎など気道感染症を起こします。

【予防接種の方法】

対象者：生後2ヶ月から60ヶ月に至るまで

標準的な接種期間：初回 生後2ヶ月から7ヶ月に至るまで

追加 生後12ヶ月から生後15ヶ月に至るまで

回数・接種間隔：初回 3回 27日以上

追加 1回 初回接種終了後60日以上の間隔をおいて、生後12ヶ月に至った日以降

※小児肺炎球菌の予防接種は、初回接種を開始した月齢ごとに接種の方法・回数が異なります。下記には標準的なスケジュールを記載します。標準スケジュールから外れた場合は【表1】を参照してください。

[表1]

接種開始年齢	ヒブ(Hib)	小児肺炎球菌
生後2ヶ月～7ヶ月 (標準的な接種期間)	初回：生後12ヶ月に至るまでの間に27日から56日の間隔をおいて3回 追加：初回接種終了後7ヶ月～13ヶ月後に1回 ※生後12ヶ月までに3回の初回接種を終了せずに生後12ヶ月以降に追加接種を行う場合は、初回接種終了後27日以上の間隔をおいて1回 合計4回	初回：生後24ヶ月に至るまでの間に27日以上の間隔をあけて3回 ※2回目の接種が生後12ヶ月を超えた場合、3回目の接種は行わない 追加：初回接種終了後60日以上の間隔をおいて、生後12ヶ月以降に1回 合計4回
生後7ヶ月～12ヶ月	初回：生後12ヶ月に至るまでの間に27日から56日の間隔をおいて2回 追加：初回接種終了後7ヶ月～13ヶ月後に1回 ※生後12ヶ月までに2回の初回接種を完了せずに生後12ヶ月以降に追加接種を行う場合は、初回接種終了後27日以上の間隔をおいて1回 合計3回	初回：生後24ヶ月に至るまでの間に27日以上の間隔をあけて2回 追加：初回接種終了後60日以上の間隔をおいて、生後12ヶ月以降に1回 合計3回
生後12ヶ月～24ヶ月	1回 合計1回	60日以上の間隔をあけて2回 合計2回
生後24ヶ月～60ヶ月		1回 合計1回

B型肝炎

【病気の説明】

肝臓の病変の主体とするウイルス性肝炎は現在A型、B型、C型、D型、E型の5つが知られています。急性肝炎の症状としては、黄疸、全身倦怠感、食思不振、悪心、嘔吐などで、ほとんどの症例では3ヶ月以内に治癒しますが、一部は劇症肝炎を発症し、予後が悪いです。

【予防接種の方法】

対象者：1歳に至るまでの間

標準的な接種期間：生後2ヶ月から生後9ヶ月に至るまで

回数・接種間隔：27日以上の間隔をあけて2回

第1回目の注射から139日以上（約20週、約5ヶ月）あけて1回

※HBs抗原陽性の妊婦から生まれた乳児として、健康保険の給付によりB型肝炎ワクチンの投与（抗HBs人免疫グロブリンを併用）の全部又は一部を受けたものについては定期予防接種から外れます。

四種混合 ジフテリア・百日咳・破傷風・急性灰白髄炎（ポリオ）

【病気の説明】

ジフテリアはジフテリア菌の感染によって起こる急性感染症で、菌が侵入した局所の偽膜病変とジフテリア毒性によって生じる病変に大別されます。

百日せきの病態は、カタル期に感冒様症状が約1～2週間ほど続き、次に痙咳期という典型的な症状（連続性の激しいせきが発作性に起こり、息を吸う間がないため、静脈圧の亢進によって顔面の紅潮、眼瞼浮腫、顔面の点状出血及び眼球結膜の出血など）が認められます。脳症を起こし、重い後遺症を起こすことがあります。

破傷風菌は嫌気性、芽胞形成グラム陽性桿菌です。これは土壌に広く分布しており、外傷、火傷及び挫創部からヒトの体内に侵入します。

急性灰白髄炎（ポリオ）の感染はヒトからヒトへの伝播のみです。このウイルスの感染症のほとんどは症状を呈しない不顕性感染に終わり、終生免疫を獲得しますが、一部のものは上気道炎又は胃腸炎症状を呈し、一部のものは永久麻痺を残します。

注射 不活化 2ヶ月～

注射 不活化 2ヶ月～

【予防接種の方法】

対象者：生後3ヶ月から90ヶ月に至るまで

標準的な接種期間：第1期初回 生後3ヶ月から生後12ヶ月に達するまで

第1期追加 第1期初回（3回）終了後12ヶ月から18ヶ月までの間隔をおく

回数・接種間隔：第1期初回 3回 20日以上（標準的には20日から56日まで、3週間～8週間）

第1期追加 1回

※四種混合ワクチンの第2期は11～12歳で二種混合（ジフテリア・破傷風）ワクチンになります。

二種混合 ジフテリア・破傷風

【予防接種の方法】

対象者：11歳以上13歳未満の者

標準的な接種期間：11歳から12歳に達するまで

回数：1回

注射 不活化 11歳

接種時期になりましたら
ご案内します

BCG 結核

【病気の説明】

結核は、菌陽性肺結核患者がせきをした時などに飛散する菌で空気感染（飛沫核感染）をします。

【予防接種の方法】

対象者：1歳に至るまでの間にある者

標準的な接種期間：生後5ヶ月から8か月に達するまで

回数：1回

注射 生 5ヶ月～

麻しん風しん（MR混合）

【病気の説明】

麻しんは麻しんウイルスによる全身感染症です。ウイルスは空気感染（飛沫核感染）・飛沫感染・接触感染をします。麻しんウイルス感染により、免疫機能低下を来すため、易感染性となり肺炎・中耳炎も多いです。

風しんは、急性ウイルス性発疹症です。妊娠初期に風しんウイルスに感染すると、胎児に感染して先天性風しん症候群（難聴、先天性心疾患、白内障及び網膜症等）が高い確率で発声します。

【予防接種の方法】

対象者：第1期 生後12ヶ月から24ヶ月に至るまで（1歳になってから2歳になるまで）

第2期 5歳から7歳未満の年長児

回数：第1期 1回

第2期 1回

注射 生 1歳～

第2期は
接種時期になりましたら
ご案内します

水痘

【病気の説明】

水痘は、水痘-帯状疱疹ウイルスの初感染によって起こる急性感染症で、空気感染、飛沫感染、接触感染によって感染伝播します。妊娠初期から中期では胎児に先天性水痘症候群、分娩直前・直後では新生児に重症の水痘発症の可能性があります。成人が発症するとその多くは小児より重症です。

【予防接種の方法】

対象者：生後12ヶ月から生後36ヶ月に至るまで（1歳になってから3歳になるまで）

標準的な接種期間：1回目 生後12ヶ月から15ヶ月に達するまで

2回目 1回目の接種終了後から6ヶ月から12ヶ月までの間隔をおく

回数・接種間隔：3か月以上（標準的には6ヶ月から12ヶ月）あけて2回

注射 生 1歳～

日本脳炎

注射 不活化 3歳～

【病気の説明】

日本脳炎は突然の高熱、頭痛、嘔吐、意識障害及びけいれん等を主徴とするウイルス性の急性脳炎です。

【予防接種の方法】

対象者：第1期初回 生後6ヶ月から生後90ヶ月に至るまで
第1期追加 生後6ヶ月から生後90ヶ月に至るまで
第2期 9歳以上13歳未満

標準的な接種期間：第1期初回 3歳から4歳に達するまで
第1期初回 4歳から5歳に達するまで
第2期 9歳～10歳に達するまで

第2期は
接種時期になりましたら
ご案内します

回数・接種間隔：第1期初回 2回 6日以上（標準的には6日から28日までの間隔をおく）
第1期追加 1回 第1期初回接種終了後6ヶ月以上（標準的にはおおむね1年後）
第2期 1回

子宮頸がん ヒトパピローマウイルス感染症

注射 不活化 13歳～

【病気の説明】

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、多くのヒトが感染してその一部が発症します。HPVに感染しても、多くの場合ウイルスは自然に排除されますが、一部が子宮頸がんを発症します。ワクチンでHPV感染を防ぐとともに、子宮頸がん検診によって前がん病変を早期発見し早期治療することで、多くの子宮頸がんが予防できます。

【予防接種の方法】

対象者：12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間
にある女子

標準的な接種期間：13歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間

回数：3回


接種間隔：2価 1ヶ月の間隔をおいて2回接種後、1回目の接種から6ヶ月の間隔をおいて1回接種
困難な場合、1ヶ月以上の間隔をおいて2回接種後、5ヶ月以上かつ2回目の接種から2ヶ月半以上
4価 2ヶ月の間隔をおいて2回接種後、1回目の接種から6ヶ月の間隔をおいて1回接種
困難な場合、1ヶ月以上の間隔をおいて2回接種後、2回目の接種から3ヶ月以上
9価 2か月の間隔をおいて2回接種後、1回目の接種から6ヶ月の間隔をおいて1回接種
困難な場合、1ヶ月以上の間隔をおいて2回接種後、2回目の接種から3ヶ月以上

接種時期になりましたら
ご案内します

平成25年6月より積極的な接種勧奨の一時差し止めが行われてきましたが、HPVワクチンの安全性・有効性に関する最新のエビデンスに基づき、令和4年4月より、積極的勧奨が再開されています。

予防接種の進め方(目安表)

標準的な接種期間

	出生	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	7ヶ月	8ヶ月	9ヶ月	10ヶ月	11ヶ月	1歳	3ヶ月	1歳	1歳半	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	入学	
ロタウイルス (経口/生)			▶▶▶																				
B型肝炎 (注射/不活化)			▶▶▶																				
ヒブ (注射/不活化)			▶▶▶																				
肺炎球菌 (注射/不活化)			▶▶▶																				
四種混合 (注射/不活化)			▶▶▶																				
BCG (注射/生)																							
MR [麻しん・風しん] (注射/生)																							
水痘 [水ぼうそう] (注射/生)																							
日本脳炎 (注射/不活化)																							

接種例 ※生後2ヶ月から計画的に進んだ場合
 (生後2ヶ月) ロタウイルス①/B型肝炎①/ヒブ①/肺炎球菌①/四種混合①
 (生後3ヶ月) ロタウイルス②/B型肝炎②/ヒブ②/肺炎球菌②/四種混合②
 (生後4ヶ月) (ロタウイルス③)※/ヒブ③/肺炎球菌③/四種混合③
 (生後5ヶ月) BCG
 (生後7ヶ月) B型肝炎③
 (1歳0か月) ヒブ追加/肺炎球菌追加/MR①/水痘①

※遅くとも生後14週6日までには開始してください。
 ※転入等により5価ワクチン(ロタテック®)を接種し始めた場合は、3回の接種になります。

初回接種から139日(約5ヶ月)あける

7~13か月あける

60日以上あけて生後12月以降

12~18月の間隔をあける

6~12月の間隔をあける

1期初回(2回) 1期追加(1回)

※11歳以上13歳未満で2期接種(2種混合)があります。近くなったらご案内いたします。

※年長で2期接種があります。近くなったらご案内いたします。

※9歳で2期接種があります。近くなったらご案内いたします。

…つづく…

* 注射生ワクチンと注射生ワクチンの接種間隔は27日以上あけて接種します(4週間後の同じ曜日からOK)が、同時接種の場合、一度に接種できる予防接種の数の制限や組み合わせはありません。
 * 剣淵町立診療所に対応している同時接種は、注射の場合2種類までです。それに加えて、経口ワクチンを同時に接種できます。

